

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

教養とは自分を造りあげることである。自分を造りあげることには本質的に①コウケンするところなき一切の営みは教養と無関係である。②多くのものをのぞき回ること、食い散らすこと、なめて見ることは、自分を造りあげるための教養にとっては本質的ではない。③ゆえに我々は論者のいうような有閑によってのみ教養の道を開かれるものでもなければ、また有閑生活を奪われることによって教養の道をふさがれるでもない。もとより読書や聴講や観劇やその他のものは、これを④キュウシユウし、その価値を強奪する根幹のたくましさができあがっている人にとっては、それぞれに教養拡大の手段となることができる。こういう⑤キカイを与えられることは、その資格を具備する人人にとっては望ましいことである。副次的に望ましいことである。しかし、きわめて多くの人にとっては、その雑多な無方針な貪食が彼等の生活を⑥サンマンにし、彼等の意志を⑦ハクジャクにし、あえて一つの事を成すに堪えぬ者とするにとどまるであろう。これよりもはるかに本質的な教養の道は、彼がその職務に全身を打ち込むことである。全身を打ち込むことによって自分を鍛えあげてくることである。

(阿部次郎『教養の問題』)

問一 この問題文を大きく三つの段落に分ける場合、

① その第二段落は、どこからどこまでか。初めと終わりとをそれぞれ三字ずつあげて示せ。

② また、その第二段落は、文の構成上次のどれに相当するか。最も正しいと思うものを一つだけ選べ。

- イ 自説の提起
- ロ 自説の敷衍ふえん
- ハ 自説の集約
- ニ 反対説の提示
- ホ 反対説への反駁
- ヘ 反対説との統一
- ト 反対説との妥協
- チ 問題の提起
- リ 問題の解説
- ヌ 結論

問二 本文中に傍線部⑧を具体的に述べている個所がある。それを書き抜け。

問三 かたかな書きの部分を漢字になおせ。

問四 傍線部⑧の文について、

- ① 助詞「ば」のふくまれている文節をあげよ。
- ② この「ば」は、文法上どういう意味をもっているか。
- ③ その文節中に活用語があれば、終止形で示せ。
- ④ この「ば」を用いたために、傍線部⑧の文にどのような特色がみられるか。